

『ハリー・ポッターと賢者の石』における イギリス版とアメリカ版の比較研究

野波 侑里

A Comparative Study of *Harry Potter and the Philosopher's Stone*
and *Harry Potter and the Sorcerer's Stone*

NONAMI Yuri

1. 序

流星のごとく現れた、無名のイギリス婦人 J. K. Rowling によって書かれた Harry Potter シリーズは、世界42カ国で翻訳され、世界中の子供のみならず大人をも魅了し、現在では第4作までが出版されて、その勢いは全く衰えをみせていない。

この作品は、当初イギリスの出版社 Bloomsbury で出版されることになり、次いでアメリカでは Scholastic 社が出版の権利を獲得した。イギリスで出版されたこの作品は、アメリカで出版されるにあたり、アメリカ版として出版された。実際にイギリス版とアメリカ版の第1巻を手にしてみると、イギリス版の題名は *Harry Potter and the Philosopher's Stone* であり、それに対してアメリカ版は *Harry Potter and the Sorcerer's Stone* と題名から異なっているのである。

本稿では、Harry Potter シリーズ第1作目のイギリス版とアメリカ版を比較することにより、イギリス英語とアメリカ英語の相違が1つの小説の中でどのように反映されるのかを考察する。今回はまず、語彙を品詞別に比較し、また本文の変更点に注目する。そしてなぜタイトルを変更するに至ったかについて考察し、最後に全体を概観してアメリカ版の意味について検討する。

イギリス版とアメリカ版を比較するにあたり、Bloomsbury 出版のイギリス版 *Harry Potter and the Philosopher's Stone* を (EV)、Scholastic 出版のアメリカ版 *Harry Potter and the Sorcerer's Stone* を (AV) と記述する。また、イギリス英語とアメリカ英語を比較する場合、motorbike と motorcycle のように前者はイギリス英語、後者はアメリカ英語とする。

2. 語彙の比較

まず Harry Potter の第 1 作目の語彙に関する変更は、名詞68語、動詞11語、形容詞 3 語、副詞 2 語の計84語であった。その他には関係代名詞、前置詞、冠詞、代名詞などの変更点も見られる。この中には behaviour と behavior、grey と gray、plough と plow のようなイギリス英語とアメリカ英語の綴りの違いによる変更は含んでいない。この綴りの変更については特に詳細について本稿では解説しないが、当然ながらアメリカ版では全ての語彙がアメリカ英語の綴りに変更されている。

2. 1 名詞

イギリス英語とアメリカ英語の違いとして典型的なものに数多くの名詞がある。本文中の名詞には下記のような例がある。

イギリス版	アメリカ版
sellotape	scotch tape
cinema	movie
post	mail
bins	trash cans
hoover	vacuum
trolley	cart
motorbike	motorcycle
crackers	party favors
rucksack	backpack
lot	bunch, crowd
mixer	processor
toilet	bathroom
car park	parking lot, parking garage

上記の最後に引用した car park はイギリス英語では駐車場、車庫の両方の意味があるが、場面設定によりアメリカ版では parking lot と parking garage に使い分けて表現している。また、パーティで使用する crackers については party favors と曖昧な表現に変更されている。アメリカ英語においても cracker は使用されると思われるが、理解しやすいようにしたのであろうか。

次に、Harry Potter シリーズは主人公が子供であり、その友人達との会話の中で、食

事や特にお菓子に関連する話題が頻繁に登場するが、それらの語彙についてもアメリカ版では数多くの変更が加えられている。下記に例をあげる。

イギリス版	アメリカ版
lemon ice lolly	lemon ice pop
mint	peppermint
sweets	candy
humberg	peppermint
puddings	desserts
jelly	Jello-O
crumpets	English muffins
sweet-shop	candy shop
chips	fries
a packet of crisps	a bag of chips
jacket potato	baked potato
bar	restaurant
tea	dinner

上記の crumpet は English muffins に変更しているが、Norman. W. Schur 『イギリス/アメリカ英語対照辞典』(1996:142) (以下、『英語対照辞典』、また:の後にはページ数を示す) によると「こんがり焼こうが焼くまいが英国風マフィンというものはイギリスにはない」とあり、英国では英国風マフィンとは言わないが、アメリカ版にするとこのような表現になるようである。

Marc Shapira 『ハリー・ポッターともうひとりの魔法使い』(2001:69) によると、作者の J. K. Rowling はこの作品の執筆にあたり、子供を対象にした作品と位置づけるか一般の大人も対象としたものにするかを迷った末、大人も楽しめる文学として執筆することに決めたようである。しかし実際には読者の中心は子供であり、日本語版は児童文学としてルビも打たれている。アメリカ版が出版されるにあたり、お菓子にまつわる語彙は、子供の読者を考えた場合に彼らの環境に相当する言葉に置き換えることにより、ストーリーの展開の妨げにならない配慮がされているのであろう。『英語対照辞典』(1996:607-8) は、「一般的にアメリカ的表現はイギリス人に理解できるが、その逆はそれほどやさしくないようだ。」としていることから、読者をアメリカの子供に想定した場合に様々な細かい配慮が必要だったのであろう。

また文中でイギリス版は、“It was a nice feeling, sitting with Ron, eating their way

through all Harry's *pasties and cakes*.” (EV:113) (以下、斜体は筆者) を、アメリカ版では “It was a nice feeling, sitting with Ron, eating their way through all Harry's *pasties and cakes and candies*.” (AV:102) と説明を追加する部分もある。

さらに、同じ食事に関するものでハンバーガーショップについて、*hamburger bar* を *hamburger restaurant* としている。さらに tea について、“Great-uncle Algie came round *for tea*...” (EV:137) は、“Great Uncle Algie came round *for dinner*, ...” (AV:125) に変更されている。イギリスでは、tea は午前あるいは午後に軽いサンドイッチとスコーンやケーキと共に紅茶を楽しむ時間をさす言葉として使用されるが、アメリカにはそのような習慣がないため、アメリカ英語において tea は単に紅茶の意味になる。上記の文は、イギリスの tea を想定してメレンゲのお菓子を使った魔法のいたずらが出てくる場面であるが、アメリカ版においてはイギリスの tea に相当する語がないため *dinner* に変更されている。

次に学校の話題である。Harry Potter シリーズは魔法の学校 Hogwarts School を中心に物語を展開するが、その学校に関する語彙の比較は下記とおりである。

イギリス版	アメリカ版
holiday	vacation
comprehensive	public school
set books	course books
sports lessons	gym
lessons	classes
register	roll call
revision timetable	study schedules
writing lines	copying lines
about turn	about-face

学校の制度はイギリスとアメリカで異なるため、学校に関連する語彙についても食事の語彙と同様に変更は必要不可欠であったのだろう。最も典型的な違いが、*comprehensive* と *public school* であろう。また、上記の “set books” は、本文中ではハリーの友人の勝気な女子学生ハーマイオニーが、自慢げに「テストの必読書なんてもちろん丸暗記しているわ。」という表現の中で使用されている。“... I've learnt all our *set books* off by heart, of course...” (EV:117) は “... I've learned all *our course books* by heart, of course...” (AV:105) に変更されている。“set book” は、*OALD* 第6版によると “a book that students must study for a particular exam” とあり英米で共通して使用される

としている。しかし、本文の中では変更されている。『英語対照辞典』によると“set book”は米語では“required reading”としている。“course books”については、*OALD* 第6版では“a book for studying form, used regularly in class”とし、英語特有のものとしている。このように語彙の微妙な差はあるがアメリカ版では平易な語に変更されている。

次にスポーツの話題について考察する。Harry Potter の中では、作者が創造した Quidditch という魔法使いの世界のスポーツが登場する。これは魔法の箒を使って大小4つのボールを使う競技であるが、この Quidditch にまつわる話の中では、スポーツに関連する語彙に変更が加えられている。

イギリス版	アメリカ版
football	soccer
trainers	sneakers
Quidditch pitch	Quidditch field
rounders bat	short baseball bat
changing room	locker room

rounders bat は、rounders というイギリスの野球に似た子供の競技であるが、アメリカの子供にはわからないという配慮から、野球に詳しいアメリカ人にわかり易いように short baseball bat に変更されている。このスポーツにまつわる話の中では、文章自体が変更されている部分もあり、この点については第3章で解説する。

さらにアメリカ版には、イギリス版に解説的な語句を加えた名詞、さらに抽象名詞について下記のようなものがある。

イギリス版	アメリカ版
the ticket box	the ticket inspector's stand
the divide	the dividing barrier
glove puppet	hand puppet
temper	mood
lookout	problem
multi-storey	multilevel
letter-box	mail slot
turning	turn
dressing-gowns	bathrobes

『英語対照辞典』(1996:598)では「イギリス人は合成語の第一要素を長くする傾向にある(彼らはアメリカ人は短くする傾向にあると思っている)が、とりわけ-ingを付したりして長くするようだ。…この傾向は単独の名詞にも起こることがある」としてハイフンでつなぐ語彙や-ingの例を挙げているが、multi-storeyとmultilevel、letter-boxとmail slot、turningとturn、dressing-gownsとbathrobes等はその典型的な例といえよう。

2. 2 動詞

次に動詞に注目すると下記のような例がある。

イギリス版	アメリカ版
queue	line up
collect	find
go (white)	turn (white)
tail	trail
nobble	clobber
revise	study
quit	even
have a place at	be accepted at
make	take

collectとfindは“I think I’ll leave it somewhere for Longbottom to *collect*…”という文中でcollectがfindに変更され、makeとtakeは“After *making* a lot of complicated notes, …”でmakeがtakeに変更されていた。イギリス英語のreviseに対応するアメリカ英語はreviewであるが、より平易なstudyに変更されている。

慣用句では、“have a place at”が“be accepted at”に変更される例は“Dudley *had a place at* Uncle Vernon’s old school, Smeltings.”(EV:40)が“Dudley *had been accepted at* Uncle Vernon’s old school, Smeltings.”(AV:32)等、多数見られる。

2. 3 形容詞・副詞

形容詞と副詞の変更は若干ではあるが下記のような例がある。

イギリス版	アメリカ版
happily	cheerfully

straight	right
a smooth lawn	a smooth, flat lawn
short-sighted	nearsighted
mad	crazy

また副詞句の例も本節に挙げておく。まず副詞句の例では *each other* が全て *one another* に変更されている。

(2-3-1 a) Harry, Ron and Hermione looked at *each other*... (EV:208)

(2-3-1 b) Harry, Ron and Hermione looked at *one another*... (AV:192)

これはかつては2つのものに *each other*、3つ以上のものに *one another* を使用したが、現在ではイギリス英語、アメリカ英語を問わず3つ以上であっても *one another* が一般的との傾向もあるが、ここでは漠然と *they* や *owls*、*“the rest of the team”* など全てアメリカ版では *one another* に変更されている。

下記の例は副詞の省略、さらに変更の例である。

(2-3-2 a) ... no one had done it for *nearly* seven years (EV:239)

(2-3-2 b) ... no one had done it for seven years (AV:221)

(2-3-3 a) They turned to go *back* outside... (EV:290)

(2-3-3 b) They turned to go outside... (AV:269)

(2-3-4 a) There were four sandwiches *in there*. (EV:113)

(2-3-4 b) There were four sandwiches *inside*. (AV:101)

また、副詞あるいは副詞句の文中の位置についても、イギリス版とアメリカ版で変更された例があるので本節で挙げておく。

(2-3-5 a) They seized a broomstick *each*, (EV:301)

(2-3-5 b) They *each* seized a broomstick, (AV:280)

(2-3-6 a) Harry left the castle and set off *towards the Quidditch pitch* in the dusk.
(EV:181)

- (2-3-6 b) Harry left the castle and set off in the dusk *toward the Quidditch field*.
(AV : 166)

このように、副詞句については様々な変更がなされている。

2. 4 関係代名詞

関係代名詞では、主格の関係代名詞についてイギリス英語では *which*、アメリカ英語ではほとんど全てが *that* に変更されている。2つ例をあげておく。

- (2-4-1 a) Scars can come in useful. I have one myself above my left knee *which* is a perfect map of the London Underground. (EV : 22)
- (2-4-1 b) Scars can come in handy. I have one myself above my left knee *that* is a perfect map of the London Underground. (AV : 15)
- (2-4-2 a) It was lit by thousands and thousands of candles *which* were floating in mid-air over four long tables... (EV : 128)
- (2-4-2 b) It was lit by thousands and thousands of candles *that* were floating in mid-air over four long tables... (AV : 116)

2. 5 前置詞

次に、前置詞においてもイギリス英語とアメリカ英語の違いが多数見られる。まず典型的な例として *in* と *on* の用法の違いがある。また *for* と *as* の違いの例を挙げる。

- (2-5-1 a) First-years should note that the forest *in* the ground is forbidden to all pupils. (EV : 139)
- (2-5-1 b) First-years should note that the forest *on* the ground is forbidden to all pupils. (AV : 127)
- (2-5-2 a) Malfoy, it seemed, had sneaked up behind Neville and grabbed him *for* a joke. (EV : 276)
- (2-5-2 b) Malfoy, it seemed, had sneaked up behind Neville and grabbed him *as* a joke. (AV : 255)

アメリカ英語における前置詞を追加する例を下記に挙げる。

(2-5-3 a) He hurried to his car and set off home, (EV : 11)

(2-5-3 b) He hurried to his car and set off *for* home, (AV : 5)

(2-5-4 a) Young Sirius Black lent it me. (EV : 11)

(2-5-4 b) Young Sirius Black lent it *to* me. (AV : 5)

(2-5-5 a) It's hard to stop Muggles noticing us... (EV : 250)

(2-5-5 b) It's hard to stop Muggles *from* noticing us... (EV : 250)

その他の前置詞の変更の例には下記のようなものがある。

(2-5-6 a) Don't mess me *about*, (EV : 175)

(2-5-6 b) Don't mess *with* me, (AV : 160)

(2-5-7 a) Harry cut *across* him. (EV : 286)

(2-5-7 a) Harry cut him *off*. (AV : 265)

2. 6 冠詞・代名詞

冠詞では、イギリス英語では定冠詞を使用しない部分でアメリカ英語では追加されている。“There was a horrible smell in the kitchen *next morning* when Harry went in for breakfast.” (EV : 41) について、アメリカ版では *the next morning* となっている。その他では、*next moment* が *the next moment*、*next second* が *the next second* に変更されている例がある。

代名詞では、下記のように owl をイギリス版では *its*、アメリカ版では *his* で受けている。

(3-1-10 a) Harry counted out five little bronze coins and the owl held out *its* leg so *he* could put the money into a small leather pouch tied to it. (EV : 72)

(3-1-10 b) Harry counted out five little bronze coins, and the owl held out *his* leg so *Harry* could put the money into a small leather pouch tied to it. (EV : 62)

2. 7 助動詞

助動詞では、イギリス英語とアメリカ英語の典型的な違いの例が一例見られた。“She told him over dinner all about Mrs Next Door’s problems with her daughter and how Dudley had learnt a new word (‘*Shan’t!*’)” (EV:12) の‘*Shan’t*’がアメリカ版では“*Won’t*”に変更されていた。

以上のように品詞別に変更点を列挙したが、その他に文法上の変更点について2点あげておく。まず、名詞の単数扱いと複数扱いについて、大学や政府機構など制度を示すものについてイギリス英語では複数扱い、アメリカ英語では単数扱いであるが、魔法使いの学校の寮の名称である *Griffindor* や *Slythelin* は予想通りイギリス版では複数扱い、アメリカ版では単数扱いされている。

時制では、イギリス版では過去完了で表現されている部分が、過去形に書き換えられている。“Strict and clever, she gave them a talking-to the moment they *had sat down* in her first class. (EV:147) は“*sat down*”に変更されている。

3 その他の表現

本章では、イギリス版にはないが、アメリカ版では追加されている文について検討する。まず、新入生がどの寮に入るかを決定するにあたり、学生が *Sorting Hat* という帽子をかぶると、その帽子が学生に合った寮を次々に選んでいくという場面がある。

(3-1 a) And now there were only three people left to be sorted. ‘Turpin, Lisa’ became a Ravenclaw and then it was Ron’s turn. (EV:134)

(3-1 b) And now there were only three people left to be sorted. “*Thomas, Dean,*” a Black boy even taller than Ron, joined Harry at the *Griffindor table*. ‘Turpin, Lisa’ became a Ravenclaw and then it was Ron’s turn. (AV:122)

(3-1 b)の斜体部分のように、アメリカ版では一文が追加されている。「黒人でロンよりさらに背の高い少年のトーマス・ディーンは、グリフィンドールの席についた。」この学生については、後に登場することになるが、イギリス版ではこの場面では登場しない。勿論、黒人という設定もないのである。

次に、*Quidditch* という魔法の世界のスポーツに関してサッカーと比較して話が展開する場面においても文が追加されていた。

(3-2 a) ‘This isn’t football, Dean,’ Ron reminded him. ‘You can’t send people off

in Quidditch—and what’s a red card? ‘But Hagrid was on Dean’s side.
(EV : 204)

(3-2 b) “*What are you talking about, Dean ?*” said Ron. “*Red card !*” said Dean furiously. “*In soccer you get shown the red card and you’re out of the game !*” “But this isn’t soccer, Dean, “Ron reminded him. Hagrid, however, was on Dean’s side. (AV : 188)

(3-2 b)の斜体部分は、イギリス版ではみられない。サッカーについて、イギリスでは football、アメリカでは soccer と表現することは、語彙の章で述べたが、イギリスはサッカーの発祥の国であり、サッカーについては国民の誰もが知っているスポーツである。それに対し、アメリカでは野球は本場であるが、サッカーについては4年前にアメリカでワールドカップが開催されたとはいえ、それほどポピュラーなスポーツではない。そこでアメリカ版では、会話文の中で、まずはロンが「何言ってるんだ？」と聞き、ディーンは「レッドカードだよ。」「サッカーでは、レッドカードを示されると、退場になるんだ」とディーンが説明する。それから、「これはサッカーじゃないんだよ」とイギリス版で出てくる場面につながる。アメリカ版ではサッカーについて、解説ではなく登場人物の言葉を増やすことにより説明を加えている。イギリスを舞台にした小説としては、矛盾を感じる場所である。イギリスの子供達であれば、red card と聞けばサッカーを連想するところを、アメリカの子供達向けに解説を入れているのである。

その他、さまざまな場面で表現の変更が見られる。まず、アメリカ版の方がより詳しい説明を加えている部分を紹介する。

(3-3 a) The rock cakes almost broke their teeth... (EV : 154)

(3-3 b) The rock cakes *were shapeless lumps with raisins that almost broke their teeth, ...* (AV : 140)

(3-4 a) ... because his knickerbockers glory *wasn't big enough*, (EV : 34)

(3-4 b) ... because his knickerbockers glory *didn't have enough ice cream on top*,
(AV : 26)

(3-5 a) you saw 'em in the Leaky Cauldron (EV : 90)

(3-5 b) You saw *what everyone in the Leakey Cauldron was like when they say yeh*. (AV : 79)

(3-3)と(3-4)は同様にお菓子の説明であるが、(3-3)では rock cake の説明を加え、(3-4)では、「ニッカーボッカーグローリー」というアイスクリームやフルーツ等を背の高いグラスに入れたものについて、アメリカ版ではさらに詳しく説明している。

その他、表現を変更しているものについて、列挙しておく。

(3-6 a) ... with the *sleeping* snowy owl on Harry's lap. (EV : 97)

(3-6 b) ... with the snowy owl *asleep in its cage* on Harry's lap... (AV : 86)

(3-7 a) ... there's *nothing for it*. (EV : 300)

(3-7 b) ... there's *no other choice*. (AV : 279)

(3-8 a) Then a pain *pierced his head* like he'd never felt before, (EV : 277)

(3-8 b) Then a pain like he'd never felt before *pierced his head*; (AV : 256)

(3-9 a) There was *nothing else for it*. (EV : 305)

(3-9 b) There was *no alternative*. (AV : 283)

(3-10 a) Hermione, of course, *came top of the year*. (EV : 330)

(3-10 b) Hermione, of course, *had the best grades of the first years*. (AV : 307)

以上のように、語彙や文法的な問題だけでなく、様々な表現においてもアメリカ版においてかなり修正されている部分がある。

4 句読点とスタイル

イギリス版とアメリカ版では、句読点などの記述方法も異なる。たとえばイギリス英語では、Mr, Mrs, Prof などのピリオドは省略されるが、アメリカ英語ではピリオドがつく。文中の登場人物の言葉は、イギリス英語ではシングル引用符(')であるが、アメリカ英語ではダブル引用符(")である。また、第2章でも少し述べたがイギリス英語ではアメリカ英語よりも頻繁にハイフン(-)が用いられる。night-time と nighttime, passers-by と passersby, snowy-white と snowy white, first-years と first years などである。

以上はアメリカ英語とイギリス英語の一般的な例に相当するが、この作品で特に多かったのは、カンマ(,)の使用方法の違いで、アメリカ版におけるカンマの多用である。“a large tawny owl” が “a large, tawny owl,” “a cup of strong sweet tea” が “a cup of

strong, sweet tea”のように、形容詞が続く場合は必ずカンマで区切る。また“He clicked it once and twelve balls of light sped back to their street lamps...” (EV:23) は “He clicked it once, and twelve balls of light sped back to their street lamps...” (AV:16) のように重文の場合に and の前で必ずカンマが入っている点が非常に多い。

さらに最も注目した点は、イギリス版では大文字で始まる語彙が小文字に変更されていることである。例として Forbidden Forest が forbidden forest, the Mirror が the mirror, The Stone が the stone などである。作者はこの「森」、「鏡」、「石」などについて、この小説の中で特別な意味を持たせたものであることは明らかである。それをアメリカ版で小文字に変更したことについては納得がいかないところである。

5. タイトルについて

最後にタイトルの問題について考察したい。序章でも述べたとおり、Harry Potter の第1作目のタイトルは、イギリス版とアメリカ版で異なっている。“the Philosopher’s Stone”は、なぜ“the Sorcerer’s Stone”に変更されたのか。

philosopher と sorcerer の違いを LDCE で調べると、philosopher は “someone who studies and develops ideas about the nature and meaning of existence and reality, good and evil etc.” であり、sorcerer は “a man who uses magic and receives help from evil spirits, especially in stories” である。philosopher は「賢者」、sorcerer は「魔法使い」である。確かにこの小説の内容は、魔法使いの Harry と魔法使いの学校を舞台とした物語である。しかし、この作品はイギリスの伝統的なファンタジー小説の流れの中で生まれた小説なのである。子供の頃から読書好きであった作者は、『アーサー王伝説』や『不思議の国のアリス』、『指輪物語』など様々なイギリスの伝統的な小説に触れ、その中から彼女が独自の世界を創作し、“philosopher” という言葉を選んだのであろう。この言葉は、イギリスのファンタジー小説の伝統が凝縮された言葉なのである。だからこそ読者は、この小説に興味を持ったのではないだろうか。それがアメリカ版では “sorcerer” として単なる魔法使いの物語と理解されたのである。

この問題について、Scholes は、*The Crafty Reader* の中で、タイトルを変更したのはアメリカのマーケティングの専門家がアメリカ市場では、sorcererの方がよく売れるだろうと判断したのだと皮肉っている。またオリジナルのタイトルについて、“the original title makes the important connection between the world of Harry Potter and the world of the alchemists who were the precursors of modern scientific thinkers.” とし、さらに “... that the word *Philosopher* in the English edition connects the magic stone to the actual history of human thought in a way that the word *Sorcerer* in the American

edition does not.” (Scholes 2001:208) としている。そして彼は次のように結論づけている。

What is important here is the way that magic in the Harry Potter books exists alongside of science. . . . My point is that J. K. Rowling is writing not fantasy but science fantasy, and she knows what she is doing. It is a pity her American publisher betrayed her in this instance by replacing the concept the “philosopher’s stone,” and all its weight of history and meaning, with the empty expression “sorcerer’s stone.” (Scholes 2001:209-210)

sorcerer について、“empty expression” という表現をしているが、実は philosopher という言葉には、人間とは別世界の魔法使いの世界の出来事ではなく、人間に潜在的に含まれる能力と魔術をオーバーラップさせた意味が含まれており、それはイギリスのファンタジー小説の主人公達においても伝統的に引き継がれているものであるという計り知れない魅力のある言葉なのである。作者は、魔法の学校へと向かう列車のホームを、ロンドンの誰もが知っているキングズクロス駅の9.3/4番ホームに設定し、魔法学校を子供たちにとって非常に身近な存在としたことから、魔法使いを人間とは切り離れた世界と感じさせる sorcerer にアメリカの出版社が変更したことには疑問を感じるどころである。

6. 結論

以上のように Harry Potter についてイギリス版とアメリカ版を比較したが、予想以上に細かい点まで変更が加えられていた。比較を始める前は、スペリングや語彙の変更を想像したが、文化の違いによる解説なども加わっていることがわかった。この変更の目的は、読者をアメリカの子供達と想定し、子供達が物語の展開を楽しむ上でイギリス独特の語彙や表現を彼らの身近な言葉や学校生活に当てはめ、彼らの知らない言葉や表現に迷うことなく読み進めることができるようにしたものであると思われる。それにより、イギリスを舞台にした小説としてのイギリス特有の語彙や言い回しなどが変更されているのが気になるところである。アメリカの子供達が意味を知らない言葉に触れることにより、他の国の文化を知るという楽しみはないのである。作者が創造した Forbidden Forest や The Mirror、そして Philosopher’s Stone に託した思いは、アメリカ版でどのように伝わるのであろう。イギリス文化が受け継ぐファンタジーの世界の雰囲気味わいながら読むという小説の楽しみが、薄れてしまうのではないかと少し残念に感じた。

日本人の読者には、イギリスの小説として Harry Potter をイギリス版で読んでもらい

たいものである。

Text :

Harry Potter and the Philosopher's Stone. 1997, J. K. Rowling, Bloomsbury Press.

Harry Potter and the Sorcerer's Stone. 1997, J. K. Rowling, Scholastic Press.

Dictionaries :

Oxford Advanced Learner's Dictionary (OALD) the 6th edition, 2000, Oxford University Press.

Longman Dictionaries of Contemporary English (LDCE) the 3rd edition, 1995, Longman.

Norman, W. Schur 著, 豊田昌倫他訳『イギリス/アメリカ英語対照辞典』, 1996, 研究社出版.

References :

Crystal, David. *English as a Global Language,* 1997, Cambridge University Press.

Declerck, Renaat. *A Comprehensive Descriptive Grammar of English,* 1991, Kaitakusha.

Milward, Peter 著, 小泉博一訳『童話の国イギリス マザー・グースからハリー・ポッターまで』, 2001, 中公新書.

Scholes, Robert. *The Crafty Reader,* 2001, Yale University.

Shapiro, Marc 著, 鈴木彩織訳『ハリー・ポッターともうひとりの魔法使い』, 2001, メディアファクトリー.